※令和４年度以降入学生用

学校番号	４０７

令和５年度　国語科

教科	国語	科目	文学国語	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	高等学校　標準　文学国語（第一学習社）						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

１．小説、随筆、詩歌、脚本等に描かれた人物の心情や情景、表現の仕方等を読み味わいます。
２．創作に関わる能力を育成する科目として、主として「思考力・判断力・表現力等」の感性・情緒の側面の力を育成する取り組みを行います。

２　学習の到達目標

１．生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。（知識及び技能）
２．深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。（思考力・判断力・表現力）
３．言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a　知識・技能	b　思考・判断・表現	c　主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけ、適切に使っている。	・「書くこと」、「読むこと」の各領域において、社会生活における他者との関わりの中で、伝え合う力を高め、自分の考えを広げたり深めたりしている。	・言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしている。 ・言葉を効果的に使おうとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

学期	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
1学期	現代の小説 ［教材］ 調律師のるみ子さん	a:文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解することができる。 b[読]:作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏ま	ワークシート ノート 定期考査	ワークシート ノート 定期考査	ワークシート ノート

※令和４年度以降入学生用

		え、作品の解釈を深めている。 c:作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。			
	現代の詩 ［教材］ 生命は	a:文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解を深め使用している。 b[読]:語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。 c:積極的に詩の世界について関心を持ち、繰り返し音読し、積極的に詩の構成やリズムを理解しようとしている。	ワークシート ノート 定期考査	ワークシート ノート 定期考査	ワークシート ノート
2学期	現代の小説 ［教材］ デューク	a:言葉の特徴や表現方法について理解することができる。 b[書]:内容を理解した上で、自らの高校生活について考え、他者に分かりやすく伝える工夫をしている。 c:自分の意見をわかりやすく伝えられるよう、よりよいものにしようとしている。	ワークシート ノート 定期考査	ワークシート ノート 定期考査	ワークシート ノート
	近代の小説 ［教材］ 鼻	a:情景の豊かさや心情の機微を表す語句について理解することができる。 b[書]:文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。 c:内供を取り巻く人々の心理や態度を積極的に読み取り、自分の考えをより伝わるよう述べようとしている。	ワークシート ノート 定期考査	ワークシート ノート 定期考査	ワークシート ノート
3学期	戦争と文学 ［教材］ わたしが一番きれいだったとき	a:文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解を深め使用している。 b[読]:語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。 c:象徴的な表現を読み取り、進んで表現上の効果や作品世界、そこに込められた心情などを理解しようとしている。	ワークシート ノート 定期考査	ワークシート ノート 定期考査	ワークシート ノート

４　学習の活動

※表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※単元の評価規準[ｂ]について…括弧内には[　話／聞、書、読　]のどれか一つを記入して下さい。

※年間の各領域時間数

・話すこと／聞くこと　…　（　　）時間

・書くこと　…　（　１５　）時間

・読むこと　…　（　５０　）時間